

[カー用品専科・月刊誌]

同乗者も満足!の“おもてなし”ファミリーカーメイク

[カーグッズマガジン] www.cargoods magazine.co.jp

Since  
1999

# Car Goods Magazine

2012  
1  
January  
定価 630円

2011年11月17日発売  
(毎月17日発売)

目指せ! 収納上手!!

車内外空間、100%活用術

特集

載

# 乗せる クルマの 作り方

行楽&帰省ドライブ  
——その前に。

キャパシティ&機動力UPのテクニク

# 積載を運ぶ



**筒状にペットを包み込む**  
egr  
**ペットチューブ**  
価格：2万1000円(ラージ) / 1万5750円(スモール)  
広げてシートに固定するだけで簡単に作りだせるペット用のスペース。上部はネット、下部は防水加工が施されたファブリックになっている。広げた際の幅が120cmになるラージと、直径がひとまわり小さく幅が45cmのスモールをラインアップ。ラージは、完全に展開するほか3/4オープン(幅90cm)と1/2オープン(60cm)としても使用可能だ。ベルトをヘッドレストに引っ掛けて車両へ固定する。



折り畳んだ状態の厚さは、わずか6cm(ラージ)。車内に置くのにも邪魔にならない。

**密閉して水がこぼれない、シリコン製ボウル**



sleepypod  
**ヤミートラベルボウル**  
価格：5985円

中にフードや水を入れて密閉できる。クルマでの移動に適した食器。容量600mlのウォーターボウルは内部に「返し」が付いていて、揺れても水がこぼれにくい構造だ。耐熱温度が-40℃から230℃と幅広いシリコン製で、冷蔵庫や電子レンジも使える、食洗機で洗うこともできる。カラーは「ベリーベリー」のほか、「キライム」「シーブリーズ」「マンゴータンゴ」の3色用意。



シリコン製なのでとても柔らかい。ウォーターボウルの上にフードボウル(中間層)でフタをすることで密閉され、逆さにしても内部の水がこぼれない構造になっているのが便利だ。最上部にはリッドボウル(手を添えている部分)を装着できる。

**車内の汚れ防止にも効果絶大**  
egr  
**シートプロテクター  
リヤシート**



価格：1万2600円  
ペットを車内に乗せる際の汚れ防止やシート表皮の傷つき防止に効果的なシートプロテクター。表面は防水性のあるポリエステル素材で表面が濡れても裏側までは水が浸透しない、裏側には滑り止めの素材になっている。犬が引っ掻いても破れにくく、水洗いも可能だ。リヤシート用のほか、フロント用(8400円)や前席の背中からリヤシートまでを覆うハンモックタイプ(1万5750円)も用意していて、すべて汎用サイズだ。



シートベルトを通すためのスリットを入れてあるので、このプロテクターの上に人が座ってシートベルトを締めることも、ペットを入れたキャリーバッグをシートベルトで固定することもできる。

**コンパクトで  
折り畳めるキャリーバッグ**



sleepypod  
**スリーピーポッド  
アトム**  
価格：1万2600円  
犬やネコのお出かけをサポートする、コンパクトサイズのバッグ。シートベルトを使ってシートに固定することもできる。カラーは「スリーピーポッド スタンダード」と同様に5色から選べ、使わないときは折り畳めるのが特徴だ。サイズは幅46cm×高さ28cmで、約6kgまでのペットを運ぶことができる。

**オートボックスでも買える お役立ちペットアイテム**

◎オートボックスセブン ☎0120-454-771 <http://www.autobacs.com>

**ペットにうれしい  
4アイテムをバック**



AUTOBACS  
**ペットキット  
4点セット P02**  
価格：2480円

リヤシートを汚れやひっかき傷から守る防水シートプロテクターとペット用のフードボウルが2個、そして汚れやすい分をキレイに拭き取れるマイクロファイバークロスが付属する、ペットドライブにオススメの4点セット。

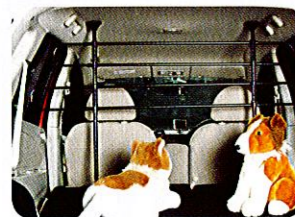
**外でも車内でも  
活用できる**



AUTOBACS  
**レジャーマット&  
食器セット P04**  
価格：1980円

約150×125cmのレジャーマット、ペットフード・ミニボウルのセット。アウトドアはもちろん、荷室にレジャーマットを敷けばワンちゃんも快適。マジックテープ付きのハンドルカバーが付いており、折り畳みも簡単。

**シンプル構造で  
取り付けも簡単**



HIGHLAND  
**ペットバリア 20045**  
価格：4800円

ミニバンやステーションワゴンの後座座席部分とラゲッジスペースを区切る、パイプ構造の仕切りアイテム。組み立ても簡単で、伸縮構造によりほとんどの車種に対応。ドライバーとワンちゃんの安全を確保してくれる。

**リヤシートを  
キレイにカバー**



AUTOBACS  
**リヤシートプロテクト P03**  
価格：1980円

リヤシートの形に添ってカバーできるプロテクターで、取り付け状態でも同乗者が座ったリシートベルトをかけることができる。もちろん防水製に優れた生地を採用しており、汚れも付きにくい。

**バッグ形状で  
扱いやすい**



AUTOBACS  
**ペットシートバック P01**  
価格：1980円

フロントとリヤのヘッドレストに引っ掛けるだけで使えるペット搬送用のシートバック。防水コーティング加工が施されているので汚れにくく、四隅はファスナー構造でペットの積み降ろしやお手入れも楽々。

及ぶダメージは最小限に抑えたい。また、衝撃でペットが宙を舞って乗員に危害を加えないようにも考えるべきだ。そのためには、小型犬ならケージやバッグなど、大型犬ならキャビンと荷室の間にガードを備えるなどの対策をとることが、ペットへの

の愛情なのである。快適と安全。そのふたつを備えた上で、デザイン面でも優れたペット用アイテムのひとつが、カリフォルニア生まれの持ち運び可能なベッド「スリーピーポッド」だ。上部を取り外せば寝心地のよいベッド、付属

のショルダールベルトを装着すればキャリーバッグとして、そして車内ではシートベルトを到着してドライブボックスとして活用可能。愛犬にとって居心地のいい空間であるだけでなく、衝突実験を実施し安全性も確認した逸品である。

クルマで  
旅する

# ペット



上部のファスナーを開け、そこから顔を出すことが可能。移動中はファスナーを締めしておく。

## の移動術

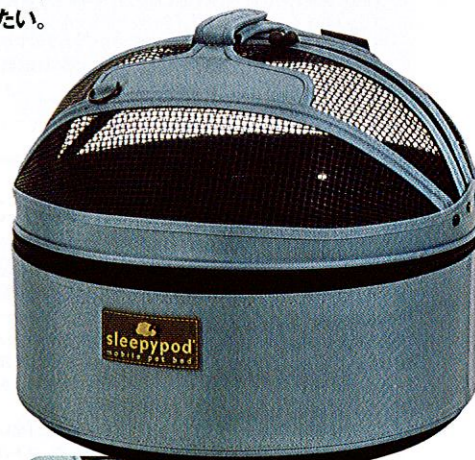
ペットにも最上級の快適性と安全を

ペット愛好家なら、ちょっとした移動から旅までペットとクルマの乗る機会も多いはず。クルマに乗せて移動するからには、ペットの快適性だってしっかり考えておきたいもの。もちろん、安全面も忘れないようにしたい。

**安全にも優れた、  
移動できるベッド**

Sleepypod  
**スリーピーポッド  
スタンダード**  
価格：1万9950円

ベッド、キャリーバッグ、そしてカーボックスと3通りの使い方ができるモバイルベッド。フェイクファーによる居心地の良さや頑丈な外枠による安全性を兼ね備えた、ドライブに最適なペットギアだ。「スタンダード」は直径43cm×高さ33cm、重さ2.5kgで、約6.8kgまでのペットに対応する。カラーは写真の「スカイブルー」のほか、レッド、ブラック、ホワイト、チョコレーの計5色を用意。ひとまわり小さく約5.5kgまでのペットに対応する「スリーピーポッドミニ」(1万8900円)もラインアップする。安全性に関しては、日本自動車研究所において6kgのぬいぐるみを入れた状態で40km/hで衝突を再現し、外に放り出されることなくきちんと保護されることを確認している。



ベッドの内部はクッションとフェイクファーを敷いた3層構造になっていて、ファスナーによる脱着式。取り外すことで気温にあわせて環境を調整したり、洗濯することも可能だ。



上部を取り外せば、居心地のいいベッドになる。家の中で日常的に使っておけば犬にとって落ち着く場所になり、クルマの移動時におけるストレス低減につながる。

**慣れしとアイテムで、  
ペットの移動をサポート**

ペットと一緒に泊れる宿やペット同伴可能なレストランが増えたり、高速道路のサービスエリアにドッグランが設置されたりと、ペットと一緒に出かける環境がどんどん整っている。それじゃあ、ついでにペットと一緒にドライブに出かける人も増えているのは歓迎すべきことだけれど、ペットと一緒に出かけるならクルマにもそれなりの準備をしておくのも忘れないようにしたい。なにより、それがペット自身の快適につな

がるのだから。ペットを快適にするにはどうするべきか? 第一段階は、「クルマに乗って移動する」という行為に対しての緊張をほぐすことだ。慣れない場所や緊張したり疲れるのは人もペットも同じこと。いきなり長距離移動をするのではなく、最初は距離・短時間から始め、移動や車内に慣れるにしたがって少しずつ距離と時間を延ばしていくのは鉄則である。もうひとつは、ペットがくつ

ろぎやすい環境を整えること。たとえば犬は、自分のニオイが付いていない場所では落ち着かないことが多い。だから移動の際は、車内にペットのニオイをつけたマットなどを置くのもひとつの手。車内で使うキャリーバッグやマットなどを、クルマに乗る前からペットに慣れさせると同時にペットのニオイをつけるワザのひとつだ。忘れてはいけないのが、安全面。人間ほど神経質になる必要はないが、そうはいってももしもの事故のときなどにペットに